

## 小委員会の調査報告書

教科名	音 楽	委員長名 和 田 浩
調 査 研 究 の 経 過	<p>1 審議の概要</p> <p>(1) 第1回調査委員会を7月2日(木)に、稚内市役所正庁で開催し、音楽・器楽小委員会の委員長並びに副委員長を選出するとともに、調査研究の進め方等について確認した。</p> <p>(2) 7月4日(金)から7月14日(火)まで、「教科書見本本」、「教科書編修趣意書」、「採択参考資料」をもとに、調査研究を進めた。</p> <p>(3) 第2回調査委員会を7月16日(木)に、稚内東中学校にて開催し、報告書の作成を行った。</p> <p>なお、調査研究した教科書見本本の発行者は、教術、教出の2社である。</p> <p>2 調査研究の観点</p> <p>調査研究の観点は次のとおりである。</p> <p>(1) 「取扱い内容」について</p> <p>(2) 「内容の構成・排列・分量等」について</p> <p>(3) 「使用上の配慮等」について</p> <p>(4) 「その他」について</p>	
調 査 研 究 に 当 た っ て の 配 慮 事 項	<p>次の点に配慮して調査研究を進めた。</p> <p>1 「取扱内容」について</p> <p>(1) 学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等に基づいて取り上げられているか。</p> <p>(2) 知識・技能の習得、活用、探究に対応できるよう、既に学習した内容の系統的な反復学習や練習問題などによる繰り返し学習に関する内容、観察・実験やレポートの作成に関する内容、他教科との関連する内容、補充的な学習や発展的な学習に関する内容などがどのように取り扱われているか。</p> <p>2 「内容の構成・排列・分量等」について</p> <p>(1) 内容の構成・排列が、地域の実態や学年の発達の段階等に応じて、系統的・発展的に組織されているか。</p> <p>(2) 内容の分量が、各分野や各領域等ごと、全体としてどのようになっているか。</p> <p>3 「使用上の配慮等」について</p> <p>(1) 生徒の学習意欲を高める工夫がされているか。</p> <p>(2) 自ら課題解決に取り組み、主体的に学習に取り組めるよう工夫されているか。</p> <p>(3) 目次、索引、注、諸表など、使用上の便宜は図られているか。</p> <p>4 「その他」について</p>	
少 数 意 見 そ の 他		

様式 2

教科名		音 楽				
取扱内容	出版社名	教科書名	番号	出版社名	教科書名	番号
		教育出版	中学音楽 音楽のおくりもの	10	教育芸術社	中学生の音楽
取扱内容	<p>○全体については、幅広い音楽活動を展開できるように「音楽の要素をとらえながら」「様々な音楽文化」に親しみ、「歌い合わせる聴き深める喜び」を実現できるよう配慮されている。</p> <p>・書き込みできる欄が増えており、ワークシートの役割も果たすことができる。</p> <p>○歌唱については、斉唱から混声四部合唱までを扱い、主旋律と他の旋律との関わりや情景を意識させながら歌ったり、曲想や声部の関わりを理解し、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現できる内容になっている。</p> <p>○器楽については、和太鼓や琴の創作・即興演奏や打楽器やリコーダー等、多様な音楽に興味、関心を持たせ、表現の技能を伸ばすことができるようになっている。</p> <p>○創作については、身近な言葉のリズムや日本語の抑揚を生かした旋律づくりやCMソングといった生活に直結した題材を通し、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現できるように配慮されている。</p> <p>○鑑賞については、我が国の伝統的な音楽や世界の諸民族の歌と楽器、さらに、ポピュラー音楽・オーケストラなど多様な音楽の良さや美しさを味わうことができる内容であり、共通教材と合わせて関連鑑賞教材を選択教材として掲載するなど、多様な音楽に対する理解を深め、主体的に鑑賞できるようにしている。</p>			<p>○全体については、表現及び鑑賞との活動を通して、思考・判断・表現を促す内容を豊富に取り入れることにより、基礎・基本が確実に定着するとともに音楽活動の楽しさを体験することができるようになっている。</p> <p>・書き込みできる欄が増えており、ワークシートの役割も果たすことができる。</p> <p>○歌唱については、斉唱から混声四部合唱まで様々なジャンルの合唱曲を扱い、曲の構成や曲想の変化を感じ取って歌ったり、曲の特徴を生かしながら日本歌曲や世界の歌を歌ったりする活動を通して、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現できるようになっている。</p> <p>○器楽については、歌唱と合わせてリコーダーを演奏することや、打楽器を使ったリズム応答の工夫などの創意工夫を通して、表現の技能を伸ばすことができるようになっている。</p> <p>○創作については、言葉、旋律、リズム、和声、を段階的に学び、曲作りを通して、表現の技能を伸ばすことができるようになっている。</p> <p>○鑑賞については、我が国の伝統音楽や世界各地の歌や楽器、さらに、ポピュラー音楽・オーケストラなど多様な音楽の良さや美しさを味わうことができる内容であり、幅広い鑑賞教材を通して、多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞できるようにしている。</p>		

<p>○〔共通事項〕については、曲のまとまりや曲想の変化を感じ取ったりする活動とともに、示された用語や記号を意識しながら、拍の流れに沿って歌ったり、特徴を生かして演奏したり、様子や曲の流れを感じ取って聴いたりすることができるように配慮されている。</p> <p>○知識・技能の習得、活用、探求への対応については、図を見ながら呼吸や姿勢、発声法を学習したり、指揮の仕方を体験する学習を取り入れたり、音楽を形づくっている要素の働きについて話し合ったりすることで、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるように工夫されている。</p>	<p>○〔共通事項〕については、活動内容に示された共通事項を意識しながら、曲のまとまりや構成などを意識して歌ったり、曲の流れを感じ取って聴いたりすることができるように配慮されている。</p> <p>○知識・技能の習得、活用、探求への対応については、図を見ながら呼吸や姿勢、発声法を学習したり、指揮の仕方を体験する学習を取り入れたり、音楽を形づくっている要素の働きについて話し合ったりすることで、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるように工夫されている。</p>
<p>内容の構成・排列</p> <p>○内容の構成・排列については、斉唱や簡単な重唱を通して、曲の構成や音の重なりなど音楽の要素をとらえる学習のあとに、混声合唱を通して、曲想や曲の内容を味わいながら歌唱する学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。また、教材の配列がテーマごとにまとめられていて使いやすい。</p> <p>○内容の分量については、第一学年の歌唱の教材数は21、器楽の教材数は2、創作の教材数は3、鑑賞の教材数は52であり、総ページ数は84ページで前回より約14%増となっている。</p> <p>第二・三学年の歌唱の教材数は43、器楽の教材数は9、創作の教材数は4、鑑賞の教材数は46であり、総ページ数は168ページで前回より約14%増となっている。（上下合わせた数）</p>	<p>内容の構成・排列</p> <p>○内容の構成・排列については、斉唱や簡単な重唱を通して、曲の構成や音の重なりなど音楽の要素をとらえる学習のあとに、混声合唱を通して、曲想や曲の内容を味わいながら歌唱する学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。</p> <p>○内容の分量については、第一学年の歌唱の教材数は24、器楽の教材数は1、創作の教材数は3、鑑賞の教材数は64であり、総ページ数は80ページで前回より約11%増になっている。</p> <p>第二・三学年の歌唱の教材数は40、器楽の教材数は0、創作の教材数は6、鑑賞の教材数は84であり、総ページ数は160ページで前回より約11%増になっている。（上下合わせた数）</p>

<p>使用上の配慮等</p>	<p>○著名な演奏家や演出家の写真とメッセージを巻頭に位置づけたり、ポピュラー音楽のそれぞれの地代を代表する音楽家や演奏家の写真を掲載するなど、生徒の興味関心をひき、学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○北海道とかかわりのある内容が多く取り上げられており生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○言語活動の充実を図るため、鑑賞の活動において紹介文を書いたり、キャラクターの「吹き出し」に学習活動のヒントを掲載したり、創作の活動などを通して自己の表現意図を曲想と関わらせ創造性を育むとともに、身近にある楽器で音を確認しながら学習を進める「音のスケッチ」として示されている。</p> <p>○巻末の「楽典」のページに各学年で学習した〔共通事項〕を示したり（全学年）、鑑賞教材のページの年表に楽曲が作曲された音楽史上の位置を示したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>	<p>○日本の歌の作詞家や作曲家のコメントをコラムとして示したり、北海道のソーラン節を歌唱や鑑賞の教材であつかったりするなど、北海道の題材を提示している。</p> <p>○著作権等について書かれており工夫されている。</p> <p>○言語活動の充実を図るため、鑑賞の活動において紹介文を書いたり、活動のポイントをキャラクターによる「吹き出し」で掲載したりするなど、生徒が主体的に取り組むことができるような工夫がなされている。また、創作活動ではグループ学習等によって学習を進める「Let's Create!」として示されている。</p> <p>○巻末の「音楽の約束」のまとめのページに各学年で学習した〔共通事項〕を示したり、学習参考資料として各種コラムや作曲家年表、西洋の楽器、和楽器などをまとめて掲載したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>
<p>その他</p>		

様式 2

教科名		音 楽				
取扱内容	出版社名	教科書名	番 号	出版社名	教科書名	番 号
		教育出版	中学器楽 音楽のおくりもの	1 0	教育芸術社	中学生の器楽
	<p>○器楽については、様々な和楽器を取り上げ、奏法や楽器の特徴を理解できるようにしたり、リコーダーやギターによる重奏曲を演奏したりする活動を通して、基礎的な表現の技能を身につけることができるようになっている。また、和楽器やリコーダー、打楽器などを用いた合奏曲を取り上げ、曲想にふさわしい表現を工夫したり、音色に気をつけて演奏したりする活動を通して、表現の技能を伸ばすことができるように工夫されている。</p> <p>○〔共通事項〕については、我が国の伝統音楽の特徴を生かし、フレーズや音の長さ、音のつながりに気をつけながら演奏したりすることにより、日本の音楽の特徴を感じ取ることができるようになっている。また、旋律の特徴を生かして演奏したり、各声部の関わり合いを感じ取りながら、演奏したりする活動により、表現の技能を伸ばすことができるようになっている。</p> <p>○知識・技能の習得・活用・探求への対応については、構え方や奏法等の写真や図を参考にして楽器の奏法を身につけたり、楽器ごとに簡単な独奏や二重奏を演奏したりするなど、基礎的・基本的な知識・技能をしゅうとくすることができるようになっている。</p>			<p>○器楽については、様々な楽器について基本的な奏法を取り上げたり、リコーダーを中心として重奏や合奏活動を通して、基礎的な技能を身につけ、創意工夫して表現できるようになっている。また、和楽器やリコーダー、打楽器を用いて曲想にふさわしい表現を工夫したり、旋律の感じをとらえて、吹き方に気をつけて演奏したりする活動を通して、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現することができるようになっている。</p> <p>○〔共通事項〕については、声部の重なり方の特徴を生かして合奏したり、音の高さの変化に注目しながら曲想を感じ取って演奏したりすることにより、音楽の良さや美しさを感じ取ることができるように工夫されている。また、曲の構成を生かしてリズム伴奏を工夫したり、和音の変化を感じ取りながら演奏したりすることによって表現の技能を伸ばすことができるようになっている。</p> <p>○知識・技能の習得・活用・探求への対応については、写真や図を参考に楽器の構造を理解し、構え方や奏法を身につけたり、楽器ごとに簡単な独奏や二重奏を演奏したりすることなど、基礎的・基本的な知識・技能を習得することができるようになっている。</p>		

<p>内容の構成・排列・分量等</p>	<p>○内容の構成・配列については、和楽器やリコーダー・ギター・打楽器などの基礎を学習する活動や簡単な楽器を演奏する活動の後に、様々な演奏形態による合奏を行う活動を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。また、生徒自ら基礎的な奏法を身につけ、それを生かした表現ができるよう、内容の震度を緩やかに設定している。</p> <p>○内容の分量については、教材数は65であり、総ページ数は99ページで前回より約8%増となっている。</p>	<p>○内容の構成・配列については、楽器の基本的な奏法や練習曲などを学習する活動の後に、打楽器などの様々な演奏形態による合奏を行う活動を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。また、和楽器とその奏法等について取り上げるなど、日本の伝統的な音楽の演奏体験をすることができる工夫がなされている。</p> <p>○内容の分量については、教材数は56であり、総ページ数は89ページで前回と同様となっている。</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<p>○多様な音楽への興味・関心が高まるよう、幅広いジャンルの演奏家の写真とメッセージを巻頭に掲載するなど生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。また、多様な音楽への興味関心が高まるよう、我が国の様々な音楽、クラシックからポピュラーまで様々なジャンルから選曲している。</p> <p>○「吹き出し」において、活動のポイントを示したり、合奏曲において「演奏のポイント」を示したりするなど、生徒が主体的に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ギターのコードやタブ譜、リコーダー運指表を掲載して、確認しながら演奏することができるようにしたり、リコーダーではアルトのみ、ソプラノのみ、併用とすべての授業で使用できるように工夫されている。また、取り扱う器楽や合奏形態ごとにページの色分けをしたり、判別しやすいレイアウト、文字の大きさにするなど、使用上の便宜が図られている。</p>	<p>○多様な音楽への興味・関心が高まるよう、幅広いジャンルの演奏家の写真とメッセージを巻頭に掲載したり、多様な音楽にふれることができるよう、各種打楽器を扱い、クラシックからポピュラー、我が国や諸外国の音楽など様々なジャンルから選曲している。</p> <p>○キャラクターの「吹き出し」において、学習活動のヒントを掲載したり、アンサンブルの各曲において「活動のポイント」を示したりするなど、生徒が主体的に取り組むことができるな工夫がなされている。また、アンサンブルセミナーの学習を通して、創造性が培われる工夫をしている。</p> <p>○「音楽の約束」で各学年が学習した〔共通事項〕を示したり、資料として日本の伝統音楽の楽器編成などをまとめて学習内容が分かるようにしたり、「音楽学習MAP」を掲載するなど、判読しやすいレイアウトで使用上の便宜を図っている。</p>
<p>その他</p>		